

## ケースマップを使用した看護師特定行為気管カニューレ交換 OSCE シナリオの作成と評価の試み

谷崎義生<sup>1)</sup>、高橋陽子<sup>2)</sup>、川端裕美<sup>2)</sup>、三ッ倉裕子<sup>2)</sup>、常味良一<sup>2)</sup>、美原盤<sup>3)</sup>、安心院康彦<sup>4)</sup>

美原記念病院 救急部・脳神経外科<sup>1)</sup>、看護部<sup>2)</sup>、神経内科<sup>3)</sup>

国際医療福祉大学熱海病院 救急部<sup>4)</sup>

【背景】高齢化がピークを迎える 2025 年に向けて、国の方針に基づく高齢者の総合的な医療体制（在宅医療など）整備の一環として、医師又は歯科医師があらかじめ作成した手順書にしたがい、一定の診療の補助（特定行為：例えば気管カニューレ交換など）を行う看護師を計画的に養成する計画が進行中である。手順書にしたがい特定行為を実施する看護師養成の研修制度では、標準化されたカリキュラムと実技試験により、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能など、看護師の質担保が義務付けられている。脳・神経疾患の急性期からリハビリ・在宅まで一貫した医療の提供をミッションにしている当院では、21 特定行為区分 38 特定行為の中から、常勤医師が増設から抜管まで責任を持って実施可能な気管カニューレ交換に特化して特定行為研修を実施している。【目的】客観的評価と手順書作成両者に有効性を評価するために、共通科目終了後に実施される区分別科目で実施される実技評価（OSCE）に、ケースマップ（CM）法を用いたので、その概要と結果を報告する。【対象と方法】平成 28 年度に採用した 3 名の研修者を対象にした。GIO は、「安全確実に気管カニューレ交換を実施し、その結果を医師に報告する」。SBOs は、患者情報収集、交換前後の身体所見の評価、交換に必要な物品の確認、感染防御、交換の手技、事後報告などとした。CM の横軸は、交換前・交換実施・交換後と 3 つの時期に分け、縦軸には対応した SBOs を配置した。評価者は、院外医師が担当し、客観性の担保に努めた。【結果】(1) 評価場面に立ち会った院外主評価者とビデオを参照した院内副評価者の評価点数の誤差は数点であった。(2) CM による評価結果をビデオによる振り返りも含め研修者と共有することにより、納得を得易い振り返りが可能であった。(3) 補助者を変更することにより、在宅や病院などの環境変化に対応可能であった。【考

察】「理解して行動に移せる」研修法には、competency-based learning に基づく複数の研修プログラムが提案されている。今回は、横軸に時間軸、縦軸に医療行為を配置し、2次元平面に医療行為を可視化可能なCMを用いた。区分別科目の研修では、Miller の臨床能力評価ピラミッドの上2段である、模擬診療である OSCE と診療の実践である手順書作成の両者に使用可能な方法が必要で、CM法は最適な方法の一つであることが強く示唆された。

。【結語】OSCE に CM 法を導入することにより、評価医師、研修者ともに客観性を担保し納得の得られる評価が可能になった。また、事後に作成する手順書の作成にも有効であった。看護師特定行為は、患者の生活リズムに即した医行為の提供の可能性が強く示唆された。